

セキュリティプラットフォーム 追加機能・改良機能一覧表 (Version 3.4.7)

セキュリティプラットフォーム に追加された機能と、改善された機能についてご紹介いたします。



2016年1月

追加・改良点	製品名	詳細
OS対応	ベーシック evolution /SV for TS/MF 各オプション	Windows Server 2012 R2 ターミナル環境に対応しました。
アプリケーション対応	ベーシック evolution /SV ベーシック +AD evolution /SV 各オプション	Google Chrome48安定版 (48.0.2564.82) に対応しました。
アプリケーション対応	ベーシック evolution /SV ベーシック +AD evolution /SV 各オプション	Adobe Acrobat Reader DC (2015.010.20056) に対応しました。
機能改良	ベーシック evolution /SV ベーシック +AD evolution /SV 各オプション	【Device Guard対応】 Windows 10 Enterprise のDevice Guardが有効な環境においても、SePが動作するよう対応しました。
新機能	ディフェンスオプション	【警告パネル自動判定機能】 警告パネルに表示される選ばれた割合の統計情報に基づき、「続ける」または「止める」の判定を自動で行う設定ができるようになりました。
機能改良	ディフェンスオプション	【履歴の追加】 「全止」の停止および再開時に下記履歴が出力されるようになりました。 ・全止一時停止 (DeP) ・全止再開 (DeP) ・全止自動再開 (DeP)

*セキュリティプラットフォームの著作権その他一切の知的財産権はハミングヘッドズ株式会社に帰属します。
 *ハミングヘッドズセキュリティプラットフォームは、ハミングヘッドズ社の登録商標です。
 *Windows は、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標、及び商標です。
 *その他のブランド名や製品名もそれぞれの所有者の商標または登録商標です。
 *本製品の仕様については、事前の予告なしに変更することがあります。
 *本書の内容の一部、または全ての無断複写・転用・転載等は、特定の場合を除き、ハミングヘッドズ社の著作権の侵害になります。
 *このレポートは2016年1月現在のものです。